

## 題目：「色が時間割引及び時間知覚に与える影響の行動経済学的研究」

氏名：大西沙紀

指導教員：高橋泰城

時間割引とは、時間の経過によって報酬の価値を割り引く傾向のことをいう。将来の大きな報酬を待てずに直近の小さな報酬を選ぶ人は衝動性が高く、時間割引率が大きい人であるといえる。過去の研究で時間割引と時間知覚の関係が示されており (Han & Takahashi, 2011)、時間を長く感じると、将来の報酬の価値が長い期間にわたって割り引かれ、時間割引は大きくなる。本研究では時間知覚に影響を与える一つの要因として、「色」に着目した。先行研究では赤色が実際に経過した時間よりも心理時間を長くさせる実験結果が示されている (Shibasaki & Masataka, 2014)。神経生理学的に興奮していると、一般に心理時間は長くなると考えられており、赤色が人々に与える緊張や興奮といった効果が心理時間を長くさせると予測される。そこで、本研究では (a) 色を見ているときの心理時間でそのときの時間割引行為を説明できるかを調べることを目的として調査を行った。室蘭工業大学と苫小牧看護専門学校の学生計 126 人に対し、時間割引課題、時間知覚課題、および落ち着き度合を尋ねる課題からなる質問紙に回答してもらった。色による回答の変化を調べるために、質問紙の背景色に青、赤、白の 3 色を用い、参加者間要因での分析を行った。その結果、目的 (a) に関して、青色条件では白色条件よりも時間を短く感じ、衝動性が低かった。それに対して、赤色条件では青色条件と同程度の長さにも時間を感じていたにも関わらず、青色条件よりも衝動性が高いという結果が得られた。目的 (b) に関しては、媒介分析の結果より、落ち着き度合は色の時間知覚への効果を媒介しないと示された。以上の結果から、青色条件では時間知覚を介して衝動性が低くなったといえるのに対し、赤色には時間知覚を介さずに衝動性を強めるなんらかの要因があると考えられる。色と時間知覚の関連は見られたが、色が落ち着き度合を媒介として時間知覚に影響を与えているとは言えず、色のもつどんな作用が時間知覚に影響を与えているかを調べるのが今後の課題である。